

# 令和元年度第1回石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議 参加者説明要旨及び意見交換等概要

日 時：令和元年7月2日（火）

午後2時～午後3時45分

場 所：宮城県石巻合同庁舎201・202会議室

## 議 事

### 1 石巻地域の雇用情勢について（石巻公共職業安定所）

- ・ 求人・求職状況の年度別推移について。平成21年度から平成22年度までは、リーマンショックの影響を受け、求人倍率の落ち込みが見られた。平成23年度では、震災の影響により求職者が大幅に増加したものの、それ以降は減少を続けている。平成24年度から平成29年度までは、求人数が増加し、各年度で年間5千人を超えている。求人数が最も多い年度は平成28年度である。平成30年度では、求人数は5千人を若干下回ったものの、依然として高水準となっている。
- ・ 令和元年5月の雇用情勢について。有効求人倍率は1.64倍となり、平成29年7月から減少傾向が続いていたが、上昇に転じた。有効求人数は24ヶ月間減少が続いていたが、4月頃から若干増加に転じている。有効求職者数についても、減少が続いていたが、半年ほど前から増加に転じている。震災前（平成22年5月）と震災後（令和元年5月）で比較すると、有効求人数は約3倍に増加、有効求職者数は約6割が減少しており、結果として有効求人倍率は0.33倍から1.64倍にまで上昇した。
- ・ 産業別新規求人数の推移について。平成22年度（震災前）と平成29年度・平成30年度を比較すると、ほとんどの業種で、新規求人数が増加している。一方で、平成29年度と平成30年度を比較すると、減少に転じた業種が多い。例えば、製造業では、水産加工・電子部品加工等の業種で求人数が減少している。特に、卸売業・小売業では6年連続で減少している。建設業で平成30年度に増加したものの、平成23年度から平成28年度までとの比較では低い水準に留まっており、就業場所についても仙台等である求人が増加している。
- ・ 職種別の求人・求職のバランスについて。事務職や倉庫・軽作業については、求職者が多いが、全体的には建設関係・警備関係・介護福祉関係で求人倍率が高く、採用に苦労している。
- ・ 業種別の労働者数の状況について。震災前と現在で比較すると、雇用保険に加入されている労働者数は、平成23年2月では約42千人であったが、令和元年5月では約47千人と、約5千人の増加となっている。業種別では、医療福祉や建設業で増加しているが、製造業・運輸業等では減少しており、特に製造業では震災前の9割にも回復していない。また、石巻管内の労働者が占める割合は、製造業・医療福祉・建設業の順となっており、震災前後で業種別順位に変化はない。ただし、各業種で占める労働者の割合は変化している。
- ・ 平成31年3月に卒業した高校生の就職決定状況について。石巻公共職業安定所を通して就職した者は486人であり、うち286人が石巻管内を希望した。管内高校生は地元志向が強く、仙台公共職業安定所に次いで高い割合であるが、昨年よりも地元志向の生徒の割合は若干ながら減少している。また、高卒求人の受理状況は、6～7月が最も多く、年々、早めに提出される企業の割合が高まっている。今年度については、販売関係、介護福祉関係及び製造関係（電子部品の製造等）で求人受理数が多い傾向であるが、水産加工については横ばい程度となっている。

### 2 平成31年3月卒業生の就職状況について

#### （1）石巻専修大学

- ・ 平成31年3月卒業生のうち、就職希望者の就職決定率は98.8%。うち、女子に限定すると100%である。また、卒業生全体に対する就職決定率は88.0%となっている。
- ・ 就職先の業種としては、大学全体で「その他（農業、飲食店・宿泊業、医療・福祉、複合サービス事業、電気・ガス・水道・熱供給業、サービス業等）」が35%を占め、次いで卸売・小売業（27%）となっている。理工学部の就職先としては、卸売・小売業が30%弱と多く、製造業

(約22%)に伸びていただきたいところである。

- ・ 就職先の地域別としては、約6割が北海道・東北地区であり、約4割が関東となっている。全国的な売り手市場の結果と考えられる。また、各学部間で差はあるが、北海道・東北地区が占める割合が高い。
- ・ 大学に提出される求人数は1,300件程度であり、前年度から190件程度減少している。減少の背景として、ウェブを活用した求人活動の増加が考えられる。
- ・ 進路先のトピックスとしては、人間文化学科の4人が、教員として就職したことが挙げられる。当学科は英語について学び、今年度に初めて高校英語教員として採用された。また、人間学部は、21%が教育・公務関連に就職し、大学として求めている結果となった。
- ・ 石巻圏域に就職している者の割合について。平成31年3月卒業生では、14人が石巻圏域に就職しており、昨年度22人に比べて減少している。就職先としては、製造業、協同組合、金融機関等である。

## (2) 石巻管内高等学校卒業生就職対策連絡会議（代表：宮城県石巻北高等学校）

- ・ 高校卒業後の進路は、各高等学校により就職・進学割合が大きく異なるが、石巻管内で比較的就職が多い高等学校として、石巻工業高等学校、石巻商業高等学校、石巻北高等学校、水産高等学校及び石巻市立桜坂高等学校が挙げられる。
- ・ 石巻地域における新規高卒者約1,500人中、就職した者は約540人である。石巻公共職業安定所の紹介で就職した者は約470人であり、うち石巻地域に就職した者は約6割である。また、縁故・自営で約30人が、公務員で約40人が就職しており、これらのうち石巻管内に就職した者は縁故・自営で約20人、公務員で7人となっている。
- ・ その他として、就職未内定者が十数人いるが、その要因としては高卒求人が無い職種を志望したことなどが挙げられる。

## (3) 宮城県立石巻高等技術専門校

- ・ 本校では、高卒者を対象として自動車整備科・金属加工科・木工科の3科において、1年間から2年間かけて技能・技術・知識を学んでいただいている。自動車整備科では、修了者18人のうち県内就職は15人である。うち石巻管内の就職者は2人で、少なく感じるが、勤務地が石巻地域にあっても本社が他地域の場合は、分類上で石巻管外としていることがその要因の一つである。金属加工科については、修了者4人全員が石巻管内に就職している。木工科については、修了者7人のうち、石巻管内の出身者がいなかったこともあり、全員石巻管外に就職している。

## 3 令和元年度における各機関の取組について

### (1) 石巻商工会議所

- ・ 本会議所では昨年度に雇用推進委員会を立ち上げ、今年度から積極的に人材確保支援事業、人材育成定着支援事業及び情報提供支援事業の3事業を展開している。
- ・ インターンシップについては、各高等学校においても既に実施しているが、本会議所としても実施することとした。会員企業にインターンシップ受け入れの可否を取りまとめたところ、受け入れ可能の会員は約60団体であった。また、管内高校に当事業の活用について照会したところ、4高校・1大学の合計5校から活用する旨を回答いただいた。各高等学校でインターンシップの実施時期は異なるため、各校毎に調整する予定としている。また、石巻専修大学においては、夏季に50人から100人までの規模で実施する予定としている。
- ・ 会員企業では、公共職業安定所に求人を出しても、採用が難しいという企業が多い。一方で、高校生の地元志向が高いようであるため、この機会に高校生に地元企業を認識していただきたい。
- ・ 情報提供支援事業では、企業ガイドブックを電子媒体で作成し、広く情報発信していく。

### (2) 女川町商工会

- ・ 女川商売塾について。本事業は、女川の地域の子ども達を対象として、将来の女川を担う人材育成を目的に、6月8日から開始している。勉強会10回及び出店2回の計12回のスケジュールと

なっている。内容は、商店主が日頃行っている事業計画策定、商品の仕入れ、販売、収支決算等の基本的な流れを児童が経験することで、児童の自主性・創造性・問題解決能力等を養うことを主眼としている。加えて、女川地域の商売の様子・人との関わりを肌で感じてもらうこととしている。

- ・ 収益が発生した場合は、女川町内の地域通貨（アトム通過）で支給することとしている。様々な取り組みを実施していく中で、女川町の将来を担う子ども達が地域を愛し、産業活動に少しでも理解を深めていただくということである。

### （3）石巻専修大学

- ・ 学生一人一人の希望に添った就職・進路実現に向けて「進路ガイダンスの質の向上」「個別相談体制の強化」「教職員の連携強化」の3つの強化策を実施し、就職率100%を目指している。
- ・ 1年生から3年生まではキャリア教育科目を設けている。1年生では社会人基礎力を意識した「キャリア設計」、2年生では職業観・就業感を醸成することを意識した「キャリア開発」、3年生では経営者セミナー等のガイダンスやインターンシップ参加を促す「キャリア研究」を展開している。また、本学主催の合同企業説明会も仙台で2日間、石巻で1日間実施している。今回は150社程度が参加した。これに参加した学生は内定率が高い。
- ・ 近年、2月に1日だけインターンシップをする企業が増加している。3月以降でなければ会社説明会を開けないので、2月にインターンシップという名目で会社説明会を実施しているようである。そのため、2月のインターンシップの参加者が増加している。本学としては、1日限定のインターンシップは辞めていただきたい旨を伝えているが、経団連から就職協定を取り止める話が出ているため、心配している。また、売り手市場だからといって、学生が企業に飛びつくのも良くない。反対に、学生が待ちの姿勢でいてもダメである。
- ・ 本学の個別の対応として、エントリーシートの記載方法について、3年生の夏季休暇中にキャリアカウンセラーから具体的にアドバイスを受けている。合同企業説明会やエントリーシートの添削を受ける生徒は、就職に結びついていると感じる。
- ・ 4年生になると、卒業研究のために各研究室に所属するが、就職の案内があったときに、学生がPRできる強みを明確にしておくことが肝要だと考える。

### （4）石巻管内高等学校卒業生就職対策連絡会議（代表：宮城県石巻北高等学校）

- ・ 各高等学校における取組について。各高等学校では様々な取組を実施しているが、石巻北高等学校においては、1年次に生徒自身が自己を見つめ直す機会を与え、それを基本に2年次から3年次の総合的な学習の時間において、自己理解や他者理解を進めている。
- ・ 1年次では、自分の生い立ちから始まって、自分史やライフプランについて考える機会を与えているほか、社会人の方から多様な講話をいただくコミュニケーション講話を実施している。また、各学年共通の取組として、交流ひろば販売所“と・ら・ま・い”を経営しており、本校で生産した農作物や加工品を月2回ほど販売することを通じてコミュニケーション能力を高めている。
- ・ 2年次では、7月にインターンシップを実施し、翌年の進路選択に役立つようにしている。
- ・ 3年次では、受け付けた求人を元に、また、先輩方の過去の会社訪問記録を活用し、7月から8月にかけて、応募前職場見学を実施している。
- ・ 更に、総合学習の時間に、全学年合同で実践発表会を実施している。従来は、学年毎に実施していた、昨年度から全学年合同で発表することで、新たな学び・気づきを得られる機会とした。本校では2年次になると各系列に分かれるため、他系列の取組が分からなくなる。社会人になるに当たり、各取組を共有し、多様な経験を知る機会とした。今後は、少しずつではあるが、外部の方も聴講していただける会にしていきたい。
- ・ 本校飯野川校では、社会に出るための準備として、ステップアップインターンシップ等を通じて多様な体験の機会を設けている。定時制高校であるため、4年間が基本ではあるが、様々な学びを単位に互換することで、3年で卒業できる三修制を取り入れている。昨年度は、3年生16人のうち13人が卒業したため、今年度の4年生は3人のみとなっている。三修制を活用する生徒割合は増加すると推測している。
- ・ 本校には、就職支援員が配置されているが、石巻管内で就職支援教員が在籍しているのは、本

校のほかに、石巻商業高校、水産高校、東松島高校及び本校飯野川校であり、計3人が担当している。各就職支援教員は企業訪問しているため、その情報を持ち寄って、卒業生の情報や、今年の求人情報等を共有する就職支援担当者連絡会議を6月20日に開催したところである。今後は、配置校以外の就職希望者が在籍する学校に対しても、タイムリーに情報共有できる取り組みをしていきたいと考えている。

#### (5) 宮城県立石巻高等技術専門校

- ・ 本校では、各生徒は学んでいる分野の就職を目指しているため、目的に沿った就職支援を実施している。
- ・ 本校としては、入校生を確保し、技術を持った修了生を輩出することが、地域貢献に繋がるものと考えている。そのため、定時制高校等向けに職業教育充実事業や、女子高校生向けに体験学習の機会を提供しており、本校に対して理解を深めていただき、卒業後の進路選択の一つに加えていただければと考えている。
- ・ このほか、本校を知って頂く機会として、高校生を対象に7月及び8月にオープンキャンパスを実施する。自動車整備科であれば自動車の点検やタイヤ交換の体験を、金属加工科では真鍮加工、木工科では木製コースターの体験等を準備している。また、翌年2月に技能ふれあい祭りを実施する予定である。是非来校していただき、本校を知っていただきたい。

#### (6) 石巻公共職業安定所

- ・ 5月に管内企業113社を対象に新規高卒者対象の求人説明会を実施したほか、就職対策連絡会議を開催した。また、6月に高卒求人の受理を開始した。
- ・ 7月には、合同企業説明会の開催を予定している。参加申し込みは99社あったが、会場面積の都合上、67社の参加となった。参加生徒は310人の予定で、昨年より多い。石巻地域における来年春の卒業生の人数は今年より多く、就職希望の生徒数も昨年より上回っているようである。ただ、現時点における希望職種は未定の者が多い状況である。
- ・ 9月には、各高校からの推薦が開始され、企業による選考・内定が解禁される。
- ・ 10月には、昨年と同様に合同就職面接会が開催予定である。昨年は参加企業67社に対して、参加生徒は64者であった。この時期は6割から7割近くの生徒が内定を得ている。この時期に就職活動中の生徒は、第一希望で受からなかったか、就職活動開始が遅くなった生徒と思われる。
- ・ 12月には、第2回の就職対策連絡会議を開催する。1月時点で就職が内定していない生徒については、個別にハローワークの方で就職相談・紹介となるが、この時期になると高卒用の求人ではなく、一般用の求人も選択可能になるので、これらも含めて紹介するといったことになる。
- ・ また、大学生向けとして、4月から石巻専修大学へ毎週木曜日の午後2時間、ジョブサポーターを派遣し、求人情報の提供、応募書類の添削及び模擬面接も行っている。

#### (7) 石巻市

- ・ 本市では、災害公営住宅に1年以上暮らす入居者のうち生産年齢人口(15～64歳)の24%が定職に就いていないため、昨年度から石巻公共職業安定所と連携し、毎月火曜日に「合同出張相談会」を実施している。今年は災害公営住宅にチラシをポスティングすることで、先月の相談者数は増加した。今年度も3月まで毎月実施する予定である。
- ・ また、別の取組として、石巻公共職業安定所と連携し、「石巻合同企業説明会」を実施している。本取組では、求職希望者を対象に、本市内の企業からプレゼンテーションで企業理解を図りながら、求職者とのマッチングを行うもの。今年度6月から翌年3月まで毎月実施する予定としており、6月では求職者12人の方に参加いただき、参加企業の職場見学会に参加された方もいた。このような取組を継続し、地元企業への就職に繋がるようにしていきたい。
- ・ なお、来年頃の事業として検討中ではあるが、高校生の就職では保護者意見の影響が大きいため、高校生と保護者を対象に、石巻企業への職場見学会について準備している。保護者の方も地元企業を知っていただき、地元企業の就職に繋がればと考えている。実施の際には、関係機関の皆様にご協力をお願いしたい。

#### (8) 東松島市

- ・ 今年度、東松島市中小企業・小規模企業振興基本計画を策定した。各機関と連携しながら、小中学校・高校生・大学生等を対象として、地元企業見学ツアーの実施やインターンシップの受入れ促進等により、地元企業をPRしていく。
- ・ 他自治体でも類似事業に取り組んでいるが、中身を濃いものにしていきたい。また、商工会の会長も含めて、企業の個別訪問を実施している。企業トップと直接会話をしながら、石巻地域の労働力の強化、今後の展望、課題等を聞き取りし、支援可能なことを各立場で検討している。
- ・ 個別訪問においては、労働力確保のみではなく人材教育に極めて力を入れている企業で従業員が定着していることや、地域の方とのコミュニケーションの取り方等を従業員に再教育している事例等が聞き取りされた。石巻地方の発展に繋がればと考えている。
- ・ 東松島市中小企業・小規模企業振興基本計画では、当面、企業側の組織化について、関係者と直接、意見交換できる場を設けられるよう計画している。また、先進的な企業の取組事例について、具体的に共有できる下地づくりに本市では取り組んでおり、学校関係者にも短時間で情報共有できるよう工夫したい。実施の際は、御協力をお願いしたい。

#### (9) 女川町

- ・ 小中学生・高校生・大学生向けには、女川商工会及びNPO法人等と連携し、「高等学校放課後事業者説明会」及び「ジョブチューン」を計画しており、今年度は高等学校放課後事業者説明会に重点を置く予定である。高等学校放課後事業者説明会では、企業の高卒新卒者の雇用を支援するために実施し、石巻商業高等学校において説明会を7月17日及び7月19日の2日間で実施するほか、女川・事業所ツアーを8月7日に実施する。
- ・ また、女川町商工会と連携して、女川商売塾を昨年から引き続き実施する。対象の小学生には、普通の授業で学べないことを学んでいただきたい。
- ・ 社会人等向けには、ハローワーク及び県と連携し「おしごと説明会」を実施するほか、「創業プログラム」を予定している。女川町内では労働力確保が必要不可欠であるため、これら事業は雇用環境の充実及び求職者の掘り起こしを目的として、秋頃の実施を予定している。

#### (10) 宮城県東部教育事務所

- ・ 県全体で取り組んでいる志教育を推進しており、各小中学校における発達段階を踏まえ、系統性を確認しながら学びを深めている。特に、地域の人材の活用、地域での見学や体験活動をとおして地域の良さに気付いて、自ら社会に参画しようとする態度を育てるよう務めている。
- ・ 皆様の御協力を頂いている職場体験活動においては、全ての中学校が実施している。日数は学校によって異なるが、2日間から3日間が主である。また、小学校における職場体験は27%。職場見学は89%で実施している。

#### (11) 宮城県東部地方振興事務所

- ・ 地域一体となった職業体験等、産業人材育成の取組の推進として、インターンシップや職場見学の受入、学校への講師派遣の可否等を掲載したガイドブックを取りまとめ、各構成団体に配付している。このガイドブックは昨年までに160件を掲載したが、今年度は更に10件を拡充する予定である。また、高等学校等からの依頼を受け、企業・団体の代表や職員の方を社会人講話の講師として派遣しており、今年度については、昨年度と同様に30人程度を予定している。
- ・ 企業と生徒・学生が接する場の提供等、地元就職の促進として、石巻公共職業安定所と共催で、地元事業所を対象に、人材の採用・育成・定着の有効な手法を学ぶセミナーを開催予定である。また、今年度の新規事業として、石巻専修大学の学生を対象に、地元事業所への理解を深め石巻地域への就職を促進するために、企業見学会を開催する予定としている。
- ・ 就職後の地元定着支援として、職場定着にはコミュニケーション能力の向上が重要な要因であるため、基本的な聴く姿勢や挨拶を含めたセミナーを3校程度で開催する予定である。
- ・ 人手不足に悩むものづくり企業に対して効率的に支援を行うため、みやぎ工業会所属のものづ

くり企業コーディネーターが当事務所に配置されている。当該コーディネーターと当事務所職員が合同で企業訪問を実施し、情報共有・連携を図りながら、支援を行っている。また、地元企業のことを高校の先生方に就職先の選択肢として知っていただくために、昨年から高校の先生方を対象として企業見学会を開催している。加えて、今年度は保護者を対象とした企業見学会を開催する予定である。

## 意見交換

### (石巻商工会議所)

- ・ 昨今の学生の現状は、家庭における躰を放棄されて、躰を学校に依存している。各企業内でも教育は必要であるが、まずコミュニケーションが取れないのが現状である。
- ・ また、学校において、担当教員は真剣であるものの、それ以外の教員は自分の問題として捉えているのだろうか。少しでも理解度を上げていただきたい。加えて、教員は報告書作成等で忙しく、子供と接する時間がないと聞く。文部科学省は学校の運営ではなく、経営という言葉を使用している。学校は運営であると思うが、教員は経営という言葉に戸惑って、報告書の作成に時間を要している。
- ・ インターンシップにおいても、来た生徒からのレポートではなく、結果を学内で共有されたい。また、インターンシップ先は本人の希望を優先していただきたい。折角希望する会社があるにも関わらず、違う会社にインターンシップに行くことは果たして良いのであろうか。

### (宮城県東部教育事務所)

- ・ 全ての小中学校において、コミュニケーション能力を高めるため、お互いの対話や共同で学習したことについて自分の考えを相手に伝えることなど、意識的に小学1年生から中学3年生まで取り組み、我々としても全力で対応している。
- ・ インターンシップ先の結果を他の生徒に伝える取組は、既に実施している。学校においては、各自が学習した内容をまとめ、発表する場を設けている。ただし、学校内で実施しているため、外部からは見えていないと感じた。広く一般にインターネットで公開するなど、企業側を意識した対応の必要性を感じる。企業側で重要視されていることがコミュニケーション能力であることも含めて、今後、校長会等の場で関係者にもお伝えしていきたい。

### (石巻管内高等学校卒業生就職対策連絡会議)

- ・ 石巻北高等学校においても、生徒のコミュニケーション能力を磨くため、昨年度から全校生徒の学習発表会を実施している。以前はインターンシップ等を体験した本人のみが理解しており、体験を共有できていなかった。先ほどの石巻商工会議所からの御指摘のとおり、今後は校内での情報共有に力を入れていきたい。
- ・ また、生徒達が地元企業から直接御指導を受けることはとても大切であり、企業の皆様とともに子ども達を地域全体で育成していければと考えている。

### (高校教育課)

- ・ 各高等学校における就職指導については、教員間の温度差がある。就職者が多い学校では、教員間の共通理解や、就職に関するノウハウもある一方で、進学校では、就職指導・ノウハウに差がある。そのため、昨年度より地区毎の就職指導研修会を開催し、ベテラン教員だけではなく、進学校の若手教員が参画するように取り組んでいる。また、地元企業を理解するため、企業見学会も取り組んでいる。先月では、登米・栗原・気仙沼地区において、気仙沼地区内の企業3社を30人程の教職員が見学した。今後も取り組みを進めていきたい。

### (一般社団法人みやぎ工業会)

- ・ 人材不足の背景について、1年間通して検討してきたが、ポイントは4点ある。
- ・ 1つめは、平成19年から平成29年までにおいて、高校卒業生が約3,000人減少し、現在は2万人程度となっていること。この傾向は今後も続き、令和5年までに、更に約2,400人が

減少する見込みである。

- ・ 2つめは、高校卒業者のうち、大学・専門学校に進学する者は74%に達しており、例年同じであるということ。一方で、就職者は23%を切って、現在22%台になっているということ。
- ・ 3つめは、就職後の3年以内の早期離職者は40.1%であること。これは全国一位である。宮城県が全国一位の理由は分からないが、要因は様々だと考えられる。これでは企業側に若い人がいなくなってしまう。
- ・ 4つめは、今般の人材不足の背景は、中小企業において震災後の復興が進んでいること。また、リーマンショック以降の採用抑制にある。定年を60歳から65歳まで延長し、定年後は1年更新で対応してきたが、高齢化が進んだため、採用を再開した企業が増加している。
- ・ これら4点の影響で、著しく人が少なくなった印象を受けている。みやぎ工業会としても、高校生の人数は増やせないで、早期離職者が出たときのマッチング支援を行っている。
- ・ 数少ない高校生の育成について、企業では挨拶・電話の対応の仕方から教育することを問題と考えているため、改めてこのような問題をどのように対応するか、皆で考えていきたい。
- ・ 企業側としては、各企業のセールスポイントを明確化することが必要であり、近未来のビジョンを社長自らが明示しなければならないと考えている。いわゆる、魅力ある企業にならないと、採用は厳しい状況である。また、新入社員の採用以前に、従業員が離職する企業には高校生から選択されない。企業は採用担当者を決め、学校とかハローワークとの連携を取りながら進めるべきと考えている。
- ・ キャリア教育は非常に重要であるため、高校にはキャリア教育を推進されたい。また、早期離職者と県内企業とのマッチングを、何とか上手く軌道に乗せていただきたい。離職した方が、人材派遣で勤務場所も固定せず、非正規職員になる事態にならないようにと考えている。
- ・ 就職担当教員を対象にした企業見学会を開催しているが、非常に好評である。石巻地域にも非常に良い企業があるが、ネームバリューが無いため知られていない。多数参加いただくことで少しずつ変化が生じると思う。

#### (東松島市商工会)

- ・ 東松島市と当商工会が、東松島市内の企業訪問を実施している。経営者の話も大切だが、実際に働いている方の声が直接伺えるところが良い。統計的に離職率は高いと聞くが、訪問先企業において離職者はいないようである。訪問時には直接対話できることから、離職の未然防止にも役立っていると考えている。
- ・ また、市内企業に対して、職場内の風通しが良い土壌となるよう働きかけているところであり、離職者が出ないような取組を推進していきたい。

#### (座長)

- ・ 石巻管内には優良企業が多くあるが、売り手市場であるため、就職直前ではなく中学生から高校2年生までに企業側が情報提供することが重要ではないか。
- ・ 学校側としては、リーマンショックの時に地元企業に助けていただいたことを忘れず、地元企業が説明できる機会を設けていただくと、理解が深まると考えている。また、保護者の意見を参考にする例が多いため、保護者に企業情報をどのようにして伝達するかが今後の課題と考えている。
- ・ コミュニケーション能力について。一朝一夕にコミュニケーション能力は身につくものではなく、育成手法の正解もない。試行錯誤しているのが現状であるが、学校側でまだ考えるべきことがあると思う。
- ・ 今後、お気づきの点があれば、宮城県東部地方事務所地方振興部に御連絡いただきたい。

—以上—